

Q&A（地震編）

Q 災害時に携帯電話はつながるの？

音声通話はできない可能性があります。

メールや災害用伝言ダイヤルを活用しましょう！

災害時に、大量の電話が殺到すると、被災地域において電話が大変つながりにくくなります。東日本大震災では、多くの事業者が音声電話の通信規制を実施しましたが、メール通信などは一時的な規制にとどまっています。メールやLINE、災害時の安否連絡用の「災害用伝言ダイヤル」、「災害用伝言板」などを活用しましょう。

被害状況によっては、通信が不安定になる恐れがあります。安否確認や救助などの重要な連絡が滞ることがないように連絡は必要最低限にしましょう。

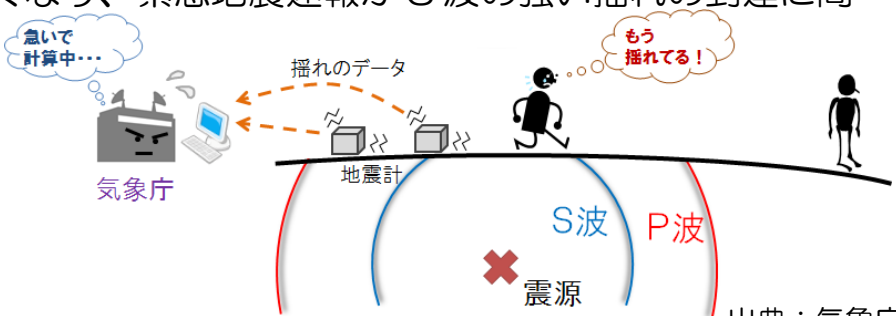
ONTT災害用伝言ダイヤル
171へ電話をかける

ONTT災害用伝言板
インターネットでWeb171
を検索し、アクセス

Q 緊急地震速報に気をつけてさえいれば大丈夫？

首都直下地震では、緊急地震速報が強い揺れの到達に間に合わない場合があります。

地震が発生すると、初めに弱い揺れであるP波が早く伝わり、その後強い揺れのS波が伝わってきます。そのため、P波を検知した段階、つまり揺れを感じる前に緊急地震速報が鳴ります。しかし、震源地が近い場合、波の伝わる時間差が短くなり、緊急地震速報がS波の強い揺れの到達に間に合いません。そのため、速報は参考にし、揺れを感じたら落ち着いて行動しましょう。



出典：気象庁 HP

Q 延焼防止のためにできるだけ住民で消火活動を続けるべき？

周辺の道が幹線道路など広い場合を除いて、すぐに避難を！

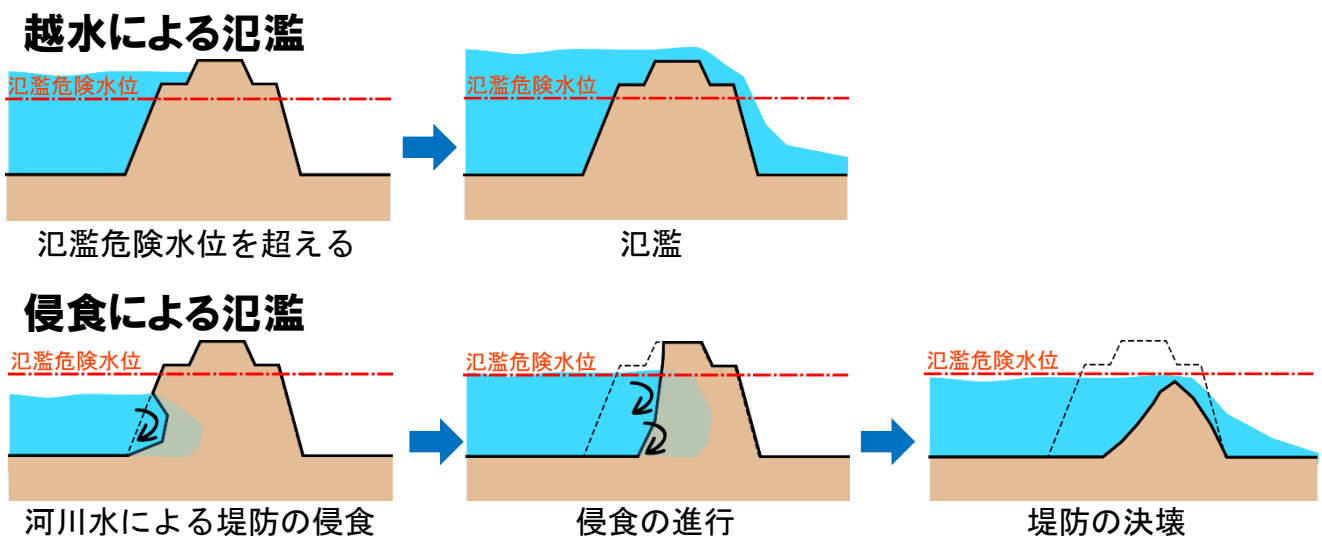
火災が起こった際、火が上がっている家の隣の壁や家を水で濡らすことは、延焼防止になります。しかし、4mもない道路が多い住宅地では、高温な輻射熱のある中、正面から消火することは難しくなります。そのため、十分な延焼防止対策ができない上、逃げ遅れる可能性があります。消火が厳しいと判断した時点で、すぐに避難しましょう。

Q & A（水害編）

Q 氾濫危険水位ってどのくらい危険なの？

氾濫危険水位に達すると、いつ氾濫してもおかしくない状況です。

「氾濫水位までまだ余裕がある」と思うかもしれませんが、河川の氾濫は越水のほかに、侵食や浸透によるものがあります。そのため、水位が堤防の高さに達していなくても、堤防が崩れて決壊する可能性があります。



Q 大規模水害時はどこに避難すればいいの？

浸水しない地域の親戚、友人、知人宅に避難しましょう！

普段から家族会議などで避難について話し合っておきましょう。

大規模水害が発生する場合には、原則として浸水しない地域の親戚、友人、知人宅等への広域避難をお願いしております。

そのため町会員に、家族でいつどこに逃げるか事前に話し合っておくことを促しましょう。また、自力で広域避難することが困難な要配慮者への対応を町会で共有しましょう。

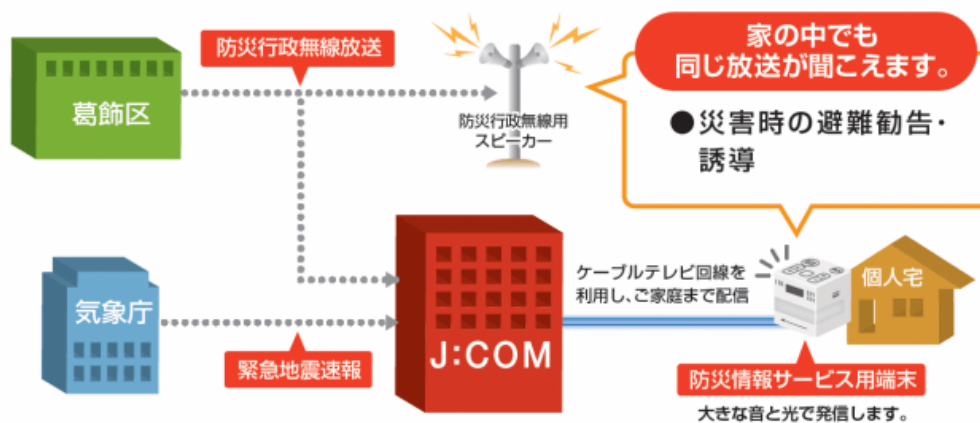
避難しても「空振り」になることを予想して、危険を感じないと避難しない人も多いかと思われます。そこで少し考え方を变えて、台風が近づいて来たら、「おばあちゃんに会いに行く」「孫の顔を見に行く」など発想を変えてみてはいかがでしょうか。



Q&A（共通）「防災情報サービス端末」って何？

葛飾区では、ジェイコム東葛葛飾との協定に基づき、防災行政無線の避難などに関する防災情報を専用の端末を通じて提供する「防災情報サービス端末」を希望する自治町会に最大3台まで提供しています。

端末を設置することで、防災行政無線の内容を室内で聞き取ることができるようになるため、いち早い避難・応急活動につなげることに役立ちます。防災情報サービス端末を活用し、町会内で防災情報を共有しましょう。



参考（各種資料の入手先一覧）

参考資料	入手先
かつしかわたしの便利帳	広報課（区役所2階211番）、区民事務所、区民サービスコーナー
かつしかの地図	広報課（区役所2階211番）、区民事務所、区民サービスコーナー、図書館等
ハザードマップ	危機管理課（区役所5階503番）、広報課（区役所2階211番）、調整課（区役所3階301番）、区民事務所等
避難行動要支援者名簿を活用した支援の手引き	区HPで公開
水害時における民間集合住宅との一時避難協定に係るガイドライン	区HPで公開